



## 将来の電力需給シナリオに関する技術検討 - 原子力想定

デロイト トーマツコンサルティング合同会社

濱崎博、大屋昌士、大久保辰哉、Lee HyoJae

## 【原子力発電の見通し】

# 原子力の発電設備容量に応じて、小および中ケースを想定した

### 各ケースの考え方

		小ケース	中ケース	大ケース
2040年	設備容量*1	26 GW	32 GW	新增設等により定量的評価が困難のため、 想定不可とした
	備考	総発電電力量が約900TWhの場合において約20%が原発由来になるときの設備容量に相当する	総発電電力量が約1100TWhの場合において約20%が原発由来になるときの設備容量に相当する	
2050年	設備容量	23 GW	37 GW	
	備考	原子力小委員会資料*2を参考に全ての原発について原則60年運転を仮定した場合の設備容量に相当	原子力小委員会資料*2を参考に2030年以降は原発のリプレースを認めるとした場合の設備容量に相当	

\*1 稼働率80%、所内率4%適用

\*2 第43回 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会、資料2、p79、[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku\\_gas/genshiryoku/pdf/043\\_02\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/genshiryoku/pdf/043_02_00.pdf)